

校長先生の話

年の初めに





コロナ禍の2020年末から2021年初にかけて

12月31日発表の国内新規感染者数 過去最多の4,540人

1月2日 1都3県の知事が政府に緊急事態宣言発出を要請

4日 菅首相が緊急事態宣言発出に向けた検討に言及

7日 首都圏に緊急事態宣言を発出（2月7日まで）

しかし、学校は休校にしない

8日 本日予定通り冬休み明けの登校開始（CAは中止）

15日（金）～28日（木） 入学者選抜（会場準備～合格発表）

2月8日 緊急事態宣言解除？



嵐からの2020年ラストメッセージ

12月31日

嵐 グループ活動休止

NHK紅白歌合戦にオンラインライブ会場から中継で出演

5人があいさつリレー

最後にMJ



嵐からの2020年ラストメッセージ

最後に松本 潤

あと2時間余りで年が明けて、僕らの嵐は
いったんやめます。

嵐が去った後に、虹のかかった美しい空が、
どうか皆さんの前に広がりますように。

明けない夜はないと信じて。



嵐からの2020年ラストメッセージ

明けない夜はない

おはようございます。また、新年あけましておめでとうございます。新しい年の始めに私から皆さんにお話ししたいことがあります。資料を準備しますので、それを見ながら聞いてください。

まず、コロナ禍の2020年末から2021年初にかけて、大変な状況でしたから、できれば考えたくないことですが、あえて少し振り返ってみましょう。

昨年大晦日12月31日発表の新型コロナウイルス国内新規感染者数は、過去最多の4,540人となりました。これを受けて、でしょうか、年が明けた1月2日に、首都圏1都3県、つまり、東京、神奈川、千葉、埼玉の知事が、政府に緊急事態宣言発出を要請しました。もちろん政府は事前に予定していたと考えたいですが、菅首相が4日の年頭の記者会見で緊急事態宣言発出に向けた検討に言及しました。

翌5日には国内新規感染者が5千人に迫り、6日には6千人を超えました。こうした状況を踏まえ、昨日7日午後6時の記者会見で、菅首相は、首都圏に緊急事態宣言を発出しました。期間は2月7日までです。前回と異なり、今回は学校の一斉休校は含まれていませんので、今日8日には普段通りに登校してもらいました。当面は平常通りの予定です。ただし、クラブ・アクティビティは中止します。

また、来週からは3期生の入学者選抜が15日(金)の会場準備から28日(木)の合格発表まであります。その間、既にお知らせしているように、皆さんには4日間のVirtual MOISを行ってもらいます。そして、感染拡大が治まってくれば、2月8日に緊急事態宣言は解除される見込みです。

ちなみに、昨日7日には全国の新規感染者は7,570人、うち埼玉県460人、うちさいたま市106人となりました。いずれもこれまでで最多です。しかし、以前もお話ししましたが、感染した方々が、感染以来ずっと患っているわけではなく、例えば埼玉県では、これまでに約1万6千人近くの方が感染しましたが、そのうち無症状の方も含め、既に約1万2千人近くの方は回復しています。

さて、このような現状において、昨年4月8日に2年生の皆さんにオンライン始業式で話したことの一部を、お話しします。音声だけで資料にはありません。聞いてください。

「(新型コロナウイルス感染拡大に対して) 私たちは本当に「未経験」と言えるのでしょうか? ペスト、コレラ、チフス、近いところでは新型インフルエンザ、SARS、MARSなど、人類の歴史は感染症との戦いでもありました。仮に私たち一人ひとりにとっては未経験であったとしても、人類にとっては決して未経験とは言えません。様々な分野の歴史を世界中の専門家がどんなに研究していても、様々な災害を未然に防ぐことがどれほど難しいことなのか、痛感させられます。

けれども、私たちは負けません。人類は負けません。多くの人命という取り返しのつかない犠牲を払うことは時に避けることができなくても、私たち人類は激甚な自然災害から

も復興するし、幾多の感染症にも打ち勝ってきました。ここ、大宮国際中等教育学校で学ぶ皆さんには、そんな人類の代表になって欲しい。そんな人類の先頭に立って欲しい。

私たちの考える「国際」「Global」は、経済競争に打ち克つことではありません。私たちの考える「Global」は、世界中の誰もが、よりよい未来を迎えることのできる世界をつくることだと考えています。皆さんが MOIS で学ぶ意義は、そういう覚悟をもって、そのための基礎的な力を十分に身につけて、4年後5年後の次のステップに進むことです。」

最後に、今日の話のスタートだった12月31日大晦日に戻ってみると・・・

嵐がグループ活動を休止しました。NHK紅白歌合戦にオンラインライブ会場から中継で出演した彼らは、5人があいさつのリレーをしました。これも資料にはありませんが、紹介しますので聞いてください。

(「カイト」の曲間に)まず櫻井くんが、「小さなカイトに、いま時代の風は容赦なく吹き付けているかのようです。昨年(2019年)1月に活動をあと2年だけと発表し、夢を掲げて懸命に走り続けた僕たちも、戸惑い続けました。絶望に襲われました。」

それを継いだ大野くんが、「大事な人を突然失って、呆然としたメンバーもいた。そんな僕らの側で消えずにいてくれたものがありました。たくさんの熱い声援と希望を語り続ける歌でした。嵐という奇跡のような場所です。」

次に相葉くんが、「おかげで僕たちはもっともっと深い悲しみに苦しんでいる人々に、思いを寄せる方へと舵を切ることができるようになりました。」

そして二宮くんが、「叶わなかった夢も、嵐の21年の歴史の一部です。そこには、この時間で学んだ知恵や勇気、慰めや思いやり、すべてしっかり記しておこうと思います。」

最後にMJ、松本くんが、「あと2時間余りで、年が明けて、僕らの嵐はいったん止みまます。嵐が去った後に、虹のかかった美しい空が、どうか皆さんの前に広がりますように。明けない夜はないと信じて。」

明けない夜はない・・・みんな今年も励まし合って、がんばっていきましょう！

以上です。

追記

二宮くんの言葉の「嵐の21年」を自分自身に置き換えて、「私の13年」や「僕の14年」などとして聞くと、とても実感できるし、励まされます。ありがとう、嵐！